平成２４年度学力向上に向けた取組

函館市立桐花中学校　　学級数　１３

視点１：アプローチの視点に基づいた，「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標
「学ぶことを楽しむ生徒の育成」

Ａ各教科・領域等における系統性や，他の教科・領域等との関連に配慮する	Ｂ長期的な見通しをもって，学習内容を確実に定着させる	Ｃ校内研究の進め方を見直す	Ｄ授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

１　学力向上プランの設定

平成２２年度に教務が提案し，本校独自の学力向上プランを設定した。

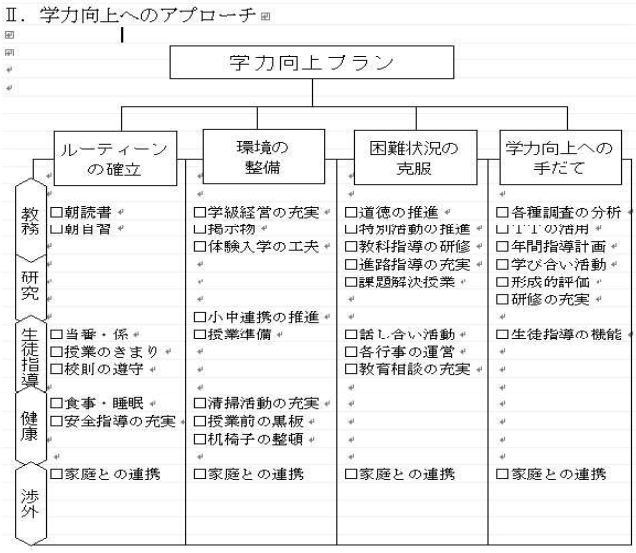
プランの４つの柱として，「ルーティーンの確立」「環境の整備」「困難状況の克服」「学力向上の手立て」を上げるとともに，校内研修では，「生徒指導の機能を生かした授業作り」をすすめている。

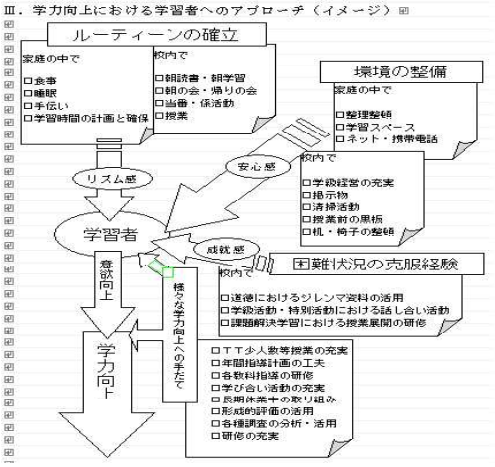
プラン設定に関わって，分掌間の協力と分担を明確にし，全職員がプラン実現に協働していく姿勢を打ち出した。また，学力向上に向けて，その環境作りや生活リズムの重要性を明記した。

まさに「種をまくのによい土壌作り」から考えたものである。

２　校内研修の視点の明確化

校内研修においては，「生徒指導　の機能を生かした授業作り」をテーマとして，授業に生徒指導の機能を生かすための視点を明らかにすることによって，自己存在感を与える手立てが豊富な授業の研修が進んだ。本校の学力向上プランとの相乗効果により，各授業においては，話し合いや発表・説明などを中心に，言語活動や表現活動がより活発に行われた。





取組の成果と課題等

○　取組の成果

・学力向上プランの運用を適切に行った。

（成果）→　　本プランは３年目となり，プランの４つの柱のうち「ルーティーンの確立」「環境の整備」「困難状況の克服」の２点は確実に浸透している。加えてプラン設定に関わって，分掌間の協力と分担がスムーズに行われ，全職員がプラン実現に協働していく姿勢が定着した。また，学力向上に向けて，その環境作りや生活リズムは安定し，落ち着いた授業風景となっている。

・校内研修の視点の明確化を研究部と協力し，進めた。

（成果）→　　学力向上プランと平行して，研究テーマも３年目の取組となった。「生徒指導の機能を生かした授業作り」を主眼として，授業に生徒指導の機能を生かすための視点を明らかにすることによって，自己存在感を与える手立てが豊富な授業の研修が進んだ。本校の学力向上プランとの相乗効果により，各授業においては，話し合いや発表・説明などを中心に，言語活動や表現活動がより活発に行われた。

○　教育課程検証の方法

・３年目となる学力向上プランを見直し，改善を図る。また，ＣＲＴの結果などを分析し，その改善にいかす予定である。

・学校評価の項目を，教職員，保護者，生徒の三者における関連を明らかにする一覧を作成した。集計された内容を関連事項に従って解析する予定である。

学校評価 自己評価項目一覧(案)

		教職員	保護者	生徒
1	重点目標	教職員は重点教育目標や経営方針を生徒や保護者に伝え意識させる取り組みをしている。	学校は，本年度の重点教育目標「学ぶこと」「生かすこと」を楽しむ生徒の実現に向けて努力していると思いますか。	桐花中学校の重点教育目標を知っていますか。
2		教職員は，教育活動において重点教育目標の実現に向けた方策を明確にするなど，具体的な取り組みを進めている。	学校は，保護者や地域への情報提供や参観を積極的に行っていると思いますか。	
3	学習指導	基礎的・基本的な学力の定着を図る取り組みが，どの教科においても進められている。	お子さんの成績は適切に評価されていると思いますか。	
4		提出物や家庭学習の習慣化など，教職員は意欲的に学ぶ生徒の育成を心がけている。	ご家庭では，家庭学習の習慣化や忘れ物をしないように働きかけていますか。	
5		発問，板書，説明，課題の提示などを通して，各教員が授業に工夫して取組んでいる。	学校は，わかりやすい授業を実践していると思いますか。	教科の授業はわかりやすいですか。
6		TTの活用や補充的学習，習熟度別学習などを通して，基礎学力の定着を図っている。	お子さんに，授業を通して基礎学力が身に付いていると感じますか。	
7		研究テーマである「学び合い」を効果的に進めるために，日常的な授業実践を行っている。		授業で，話し合いをする時間が多いと感じていますか。